

場所	佐賀県伊万里市
面積	2.08ha
活動目的	里山環境の維持管理により里山の生物多様性の保全と向上を図るとともに、「体験の機会のある場」としての体験学習を通して里山環境と人の関わり、そこに生息する生物の大切さを広く周知することを目的とし、人と自然の共存について考えるきっかけとする。



サイト概要	本サイトは佐賀県西部の伊万里市の丘陵地帯に位置し、照葉樹の二次林、雑木林、谷津田、放棄水田、草地、水路、湿地ビオトープ（放棄水田に造成）、水路など里山環境が形成されている。ミヤマカラスアゲハなどのチョウ類、タマムシやヒラタクワガタなどのコウチュウ類、全国的に減少が伝えられる希少種を含むトンボ類が生息し、九州地方の里山の自然が残る。また、放棄水田に湿地ビオトープを造成したところ、複数の希少な両生類の生息が確認され多数の卵塊が確認されるようになり、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエルの繁殖も確認された。湿地ビオトープはトンボ類の生息地としても重要な役割を果たしつつある。
-------	--

**土地利用の
変遷**

二次林、雑木林、草地、水路が主体の里山環境で、令和2年（2020年）に環境教育等促進法にもとづく「体験の機会のある場」に認定された。認定団体の朝日テクノ株式会社が環境の維持管理を行いつつ、里山環境や生息する生物を活用して年に4回の親子を対象にした環境学習を開催している。この環境をさらに多様にするため広葉樹を植樹をしたり、放棄水田を借り上げて湿地ビオトープを造成し、環境学習に活用している。申請区域内に残る放棄水田は、環境改善を図り生物多様性の向上を目指す予定である。

**サイト周辺の
環境**

周辺には、二次林が広がり雑木林が点在し、集落周辺には果樹園、田圃、ため池等が存在するが、周辺は放棄水田が目立つ。ため池では希少な魚類の生息が確認されたが土砂の堆積が進んでいる。一方で除草剤を使わずに草刈り機での除草をしているので草本植物が多様である。

**アピール
ポイント**

本サイトでは、里山環境の中に「本来いるべき生き物」が生息し、環境省および佐賀県のレッドリスト掲載種が複数種確認されている。広葉樹の植樹や湿地ビオトープの造成によりさらに生物多様性の向上が期待できる。環境学習会では里山環境や生物を利用した体験学習だけでなく、植樹や湿地ビオトープの維持管理を体験してもらうことで環境保全のための知識と技術を伝えている。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】
本サイトには照葉樹の二次林、雑木林、草地、水路、谷津田の放棄水田、造成した湿地ビオトープがあり、様々な環境がモザイク的に存在する里山環境を構成している。環境に応じてスミレ類、フデリンドウなどの明るい草地の草本、サツマイナモリなどの林内の草本、オニヤンマやアカネ類などのトンボ類、ミヤマカラスアゲハなどのチョウ類、ヒラタクワガタなどのコウチュウ類、シュレーゲルアオガエルなどの両生類が確認されている。

【主な植生】
照葉樹の二次林、雑木林、スギ・ヒノキ植林、湿地（放棄水田）、草地

【確認された主な動植物など】
植物については山林および湿地ビオトープを中心に調査を行い、343種を確認。昆虫類についてはチョウ目37種、トンボ目29種を確認、コウチュウ目については調査不十分であるがヒラタクワガタ、ノコギリクワガタなどの里山を代表する種が生息。その他両生類8種、爬虫類6種、鳥類45種、哺乳類5種を確認している。

【植物】 コスミレ *Viola japonica*、フデリンドウ *Gentiana zollingeri*、サツマイナモリ *Ophiorrhiza japonica*、タチシノブ *Onychium japonicum*、キクムグラ *Galium kikumugurai*、ヤマネコノメソウ *Chrysosplenium japonicum*、コナラ *Quercus serrata* など

【昆虫】 オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*、アサヒナカワトンボ *Mnais pruinosa*、ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra*、ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii*、クロセセリ *Notocrypta curvifascia curvifascia*、スジグロシロチョウ *Pieris melete*、メスグロヒョウモン *Damora sagana liane*、ヒラタクワガタ *Dorcus titanus*、ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*、タマムシ *Chrysochroa fulgidissima*

【両生類】 シュレーゲルアオガエル *Zhangixalus schlegelii*、ニホンアカガエル *Rana japonica* など

なお、確認した種の中には環境省RLや佐賀県RLに掲載されている複数の希少種が含まれる。



写真の説明：湿地ビオトープ（2022年12月造成）

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトは令和2年（2020年）に環境教育等促進法にもとづく「体験の機会の場」に認定され、主として親子を対象に年に4回の環境学習会を開催し、竹を使ったプランター作り、昆虫採集、植物観察、どんぐりや野草を食べる、野鳥観察、稲刈り体験など、里山の資源を活用した自然体験、生活体験の活動の場を提供している。生物資源の維持のため、植生管理や水路の手入れなどを行っている。

【主な植生】

照葉樹の二次林、雑木林、スギ・ヒノキ植林、湿地（放棄水田）、草地

【確認された主な動植物など】

植物については山林および湿地ビオトープを中心に調査を行い、343種を確認。昆虫類についてはチョウ目37種、トンボ目29種を確認、コウチュウ目については調査不十分であるがヒラタクワガタ、ノコギリクワガタなどの里山を代表する種が生息。その他両生類8種、爬虫類6種、鳥類45種、哺乳類5種を確認している。

【植物】コスミレ *Viola japonica*、フデリンドウ *Gentiana zollingeri*、サツマイナモリ *Ophiorrhiza japonica*、タチシノブ *Onychium japonicum*、キクムグラ *Galium kikumugurai*、ヤマネコノメソウ *Chrysosplenium japonicum*、コナラ *Quercus serrata* など

【昆虫】オニヤンマ *Anotogaster sieboldii*、アサヒナカワトンボ *Mnais pruinosa*、ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra*、ミヤマカラスアゲハ *Papilio maackii*、クロセセリ *Notocrypta curvifascia curvifascia*、スジグロシロチョウ *Pieris melete*、メスグロヒョウモン *Damora sagana liane*、ヒラタクワガタ *Dorcus titanus*、ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus*、タマムシ *Chrysochroa fulgidissima*

【両生類】シュレーゲルアオガエル *Zhangixalus schlegelii*、ニホンアカガエル *Rana japonica*、など

なお、確認した種の中には環境省RLや佐賀県RLに掲載されている複数の希少種が含まれる。



写真の説明：湿地ビオトープでの生物観察

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

谷間の水路、湿気が多い山すそ、造成された湿地ビオトープなど森林に隣接した水辺環境で希少生物が確認されている。

【確認された希少種】

環境省レッドリストまたは佐賀県レッドリストに掲載された希少種として植物3種、昆虫類7種、両生類2種が湿地ビオトープや二次林などで確認されている。



写真番号：1 庭部

写真の説明：希少種が確認された場所の一部

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
【活動計画の内容】 （１）保全活動 ① 放置すると植物の繁茂が進み特定の植物が優占し、生息できる動物の種類が限られて くるため、状況を見ながら適度な植生管理（除草）を行い、多少の変動の範囲内で草地、湿地、雑木林、森林がモザイク状にバランスよく存在する環境を維持する。 ② 希少な両生類の幼生がサギなどの水鳥に捕食されている形跡がある。アライグマの生息可能性もあり、水面にネットを張り幼生が捕食されるのを抑制する。 ③ 湿地ビオトープの水はそばを流れる農業用水路から取り入れているが、安定して取水できるよう塩ビ管を設置。時々点検し異常があれば修正する。 ④ 湿地ビオトープには円形の3つの池があるので（池は細い水路でつながっている）、それぞれの植生に変化をつけて開放水面が広い池、まとまった面積の水際植生がある池、抽水植物が広く繁茂する池をつくり、多様な環境を創出するようデザインすることでトンボ類をはじめ生息する動物の種類数増加を目指す。 ⑤ 湿地に隣接して有機栽培の水田をつくり、さらに環境の多様化を図る。 ⑥ 申請エリアに含まれる休耕田は現状でも希少なトンボ類を含む希少種が見られるが、さらに生物多様性を向上するための環境づくりを検討する。 ⑥ 森林環境を改善するため、スギ林の跡地にヤマザクラ・イロハモミジ・コナラ・ヤマモモ・タブノキ・ヤマボウシなどの苗木を植えるE S Dの森林（もり）活用プロジェクトを2023年から行っている。 【生態系サービス】 ① 「体験の機会の場」の認定を受けているので、年に4回の環境学習「里山で学ぼう」を開催し、里山の資源を活用した自然体験、生活体験の活動の場を提供している。	【モニタリング対象】 植物、陸生昆虫類、両生類、は虫類を対象とする。 陸生昆虫類については主にチョウ類とトンボ類を対象とし、コウチュウ類などその他の昆虫は補足的に記録。 【モニタリング場所】 申請区域内において、各分類群の生物相を把握するのに適当な場所を選定して調査を実施する。造成した湿地ビオトープと放棄水田は生物相の変化が大きいと予想されるので、重点的に調査を行う。 【モニタリング手法】 【植物】 ラインセンサス法及び任意調査 【陸生昆虫】 双眼鏡、肉眼、採集による任意調査。 【は虫類・両生類】 任意調査。両生類については卵塊や鳴き声調査を含む。 ※レッドリスト種の生息確認を重視する。 【モニタリングの実施時期及び頻度】 季節の偏りが無いよう年に3～4回程度実施。前年の調査結果を踏まえて翌年には必要に応じて実施時期を変更する。この方法で4年間（2025～2028年）調査を継続し、5年目に調査結果をとりまとめる。 【モニタリング実施体制】 朝日テクノ株式会社自然環境課